

事後評価概要資料

番号	2002	担当課名	道路街路課													
事業名	道路改築事業	事業主体	埼玉県													
路線・河川・地区名	一般国道 407 号日高バイパス	事業箇所名	日高市													
事業完了年度	H21 年度	事業完了後の経過年数	2 年													
事業概要	目的	混雑箇所を迂回するバイパスの整備により、現道および周辺道路の渋滞解消と圏央道のアクセス向上を図る。														
	必要性	一般国道 407 号は、埼玉県西部地域を縦断する主要な幹線道路であり、交通量が非常に多く日高市内の高萩交差点付近などで慢性的な交通渋滞が発生していた。 また、圏央鶴ヶ島 IC・狭山日高 IC が近接し、地元日高市では企業誘致を積極的に進めており、多数の企業が進出している。このため、交通の円滑化と地域経済の発展に資するバイパスの整備が必要となっていた。														
	効果	通過交通のバイパスへの転換が図られ、現道および周辺道路の渋滞が大幅に解消し、沿道地域から圏央道へのアクセスも大きく向上した。また、企業数も年々増加しており地域経済の発展に寄与している。														
	事業内容	総事業費	11,900 百万円	事業期間	S63~H21 ( 22 年間)											
	バイパスの整備 延長 1.9km、幅員 23.5m (完成 4 車線) 主な構造物 鉄道立体交差、橋りょう															
事業概要図																
事後評価項目	事業の効果の発現状況	①バイパス開通前後の交通量の変化 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開通前 (H22.3)</th> <th>開通後 (H23.4)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現道</td> <td>22,497 台/日</td> <td>11,423 台/日</td> <td>-11,074 台/日 (-49.0%)</td> </tr> <tr> <td>バイパス</td> <td>—</td> <td>16,798 台/日</td> <td>+16,798 台/日</td> </tr> </tbody> </table>				開通前 (H22.3)	開通後 (H23.4)	差	現道	22,497 台/日	11,423 台/日	-11,074 台/日 (-49.0%)	バイパス	—	16,798 台/日	+16,798 台/日
		開通前 (H22.3)	開通後 (H23.4)	差												
	現道	22,497 台/日	11,423 台/日	-11,074 台/日 (-49.0%)												
バイパス	—	16,798 台/日	+16,798 台/日													
		②高萩交差点の渋滞状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開通前 (H22.3)</th> <th>開通後 (H23.4)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大渋滞長</td> <td>190m</td> <td>0m</td> <td>-190m</td> </tr> </tbody> </table>				開通前 (H22.3)	開通後 (H23.4)	差	最大渋滞長	190m	0m	-190m				
	開通前 (H22.3)	開通後 (H23.4)	差													
最大渋滞長	190m	0m	-190m													
		③通過時間の比較 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現道 (H22.3)</th> <th>バイパス (H23.4)</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通過時間</td> <td>7 分</td> <td>3 分</td> <td>-4 分</td> </tr> </tbody> </table>				現道 (H22.3)	バイパス (H23.4)	差	通過時間	7 分	3 分	-4 分				
	現道 (H22.3)	バイパス (H23.4)	差													
通過時間	7 分	3 分	-4 分													
目	効果分析の要因の変化	再評価時 (H19) との比較 ・全体事業費 125 億円→119 億円 (6 億円減) ・供用年度 H21→H21 (変化なし) ・B / C 2.5→2.7 (0.2 増)														
	事業実施による副次的効果	なし														
評価結果及び考察	(評価結果) ○バイパス整備により、現道および周辺道路の渋滞が大幅に解消し、沿道地域から圏央道へのアクセスも大きく向上するとともに、地域活性化へも寄与。 (考察) ○今後も厳しい財政状況の中で更なる選択と集中を行い、事業効果の早期発現に努めるべきである。															
特記事項																